

山鹿市民医療センター開放型病院広報紙

6月号

Yamaga Medical Center



発行所 山鹿市民医療センター 〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地 TEL 0968-44-2185(代) FAX 0968-44-2420

がん相談支援センターのご案内

がん相談支援センターは、全国のがん診療連携拠点病院に設置されている、がんに関する相談窓口です。不安や悩みなどについてお話を伺い、一緒に考えて気持ちを整理したり、信頼できる情報を提供することにより、その人らしい生活や治療の選択ができるようお手伝いさせていただきます。院内院外を問わず、患者さまやご家族、知人や友人の方など、誰でも無料で相談いただけます。対面相談だけでなく、電話相談や匿名でのご相談も可能です。相談いただいた内容は、ご本人の同

意なしに主治医や病院のスタッフを含め他の人に知られることはありません。

2023年4月から当センターのがん相談支援センターは、「がん相談支援センター がん対策支援室」となり、センター長 石河院長、がん専門相談員2名(医療ソーシャルワーカー1名、看護師1名)、事務2名体制で院内外の専門職・各関係機関と連携をとりながら対応をしています。

主な業務内容

- \* がんの病態、標準的治療法等がん診療及びがんの予防・早期発見等に関する一般的な情報の提供
- \* 自施設で対応可能ながん種や治療法等の診療機能及び、連携する地域の医療機関に関する情報の提供
- \* セカンドオピニオンの提示が可能な医師や医療機関の紹介
- \* がん患者の療養生活に関する相談
- \* 就労に関する相談 (産業保健総合支援センターや職業安定所等との効果的な連携による提供が望ましい)
- \* 地域の医療機関におけるがん医療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
- \* がんの地域医療連携クリティカルパスの運用
- \* アスベストによる肺がん及び中皮腫に関する医療相談
- \* HTLV-1 関連疾患である ATL に関する医療相談
- \* 医療関係者と患者会等が共同で運営するサポートグループ活動や患者サロンの定期開催等の患者活動に対する支援
- \* 相談支援センターの広報・周知活動
- \* 相談支援に携わる者に対する教育と支援サービス向上に向けた取組
- \* その他相談支援に関すること



年間平均約2000件の相談実績があります。相談内容は、不安・精神的苦痛399件/年、症状・副作用・後遺症266件/年、患者・家族関係・コミュニケーション266件/年、医療費・生活費・社会制度243件/年、ホスピス・緩和ケア224件/年と、「からだ」「こころ」「くらし」に関する様々なご相談をお受

けています。

患者さまやご家族、関係機関の皆さまに『がん相談支援センター』があることを知っていただき、是非ご利用活用いただければと存じます。

(文責:がん相談支援センター看護師長 豊福貴子)

基本理念

いのち

地域住民の生命と健康への貢献

基本方針

山鹿市民医療センターは

- ① 患者さま中心の信頼される医療を行います
- ② 診療機能の充実に努め、質の高い医療を提供します
- ③ 地域の保健、医療、福祉の連携を推進します
- ④ 研修、研鑽に努め医療レベルの向上を図ります
- ⑤ 健全経営に努めます

CONTENTS

がん相談支援センターのご案内…………… P 1  
 山鹿市早田市長が看護部を激励訪問…………… P 2  
 令和5年度新規採用職員研修を開催しました… P 2  
 医療最前線 (147) ……………… P 3  
 第73回公開講演会のご案内 ……………… P 3  
 外来担当医表 (6月) ……………… P 4

## 早田山鹿市長が看護部を激励訪問

令和5年4月14日（金）の午後に、山鹿市の早田市長が職員への慰労と激励のため当センターを訪問されました。

早田市長は冒頭のあいさつで、別府事業管理者や石河院長をはじめ、新型コロナウイルス感染者の対応にあたる医療従事者に感謝の意を伝えられました。そして、医療現場で働く職員を元気づけたいと、各病棟にも訪問いただきました。直接お会いすることが初めての職員も多く、緊張した面持ちでしたが、市長からのお言葉を受けあたたかい雰囲気場で場が和みました。看護師長たちからも、訪問へのお礼と地域住民の皆さまへ看護職としての役割を果たしていきたいことなどを伝えました。

その後、医療現場における課題などについて意見交換する時間をいただき、全看護師長と看護部長、副看護部長が参加しました。新型コロナウイルス感染症も5月に



は5類感染へと移行しましたが、この新型コロナウイルスと3年以上向き合い続けてきた看護職、特に急性期病院での看護職の疲弊・離職問題は全国的にも深刻化しています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の患者数も減少し、現場も少しずつ落ち着きを取り戻していますが、意見交換では、これまで発熱等の救急搬送の増加に伴う入院患者の増加で、看護職が不足する中での勤務調整や入院病床の確保が非常に困難だったことなど、たくさんの想いを伝えました。多忙な現場を切り盛りし、ここまで必死に乗り越えてきた看護師長たちも、早田市長へ伝えていくうちに、辛かった日々が蘇り眼には涙があふれていました。

現場の生の声を親身に聞いていただいたこと、そして市長からの力強い励ましは、医療現場で闘い続ける看護職の大きな活力になりました。

（文責：看護部長 野中 理佳）



## 令和5年度新規採用職員研修を開催しました

4月3日～5日の3日間で毎年恒例の新規採用職員研修を開催しました。

今年度も、放射線技師等のコメディカル、看護師、事務職等多職種が入職し、昨年度からの入職者3名を含む20名が受講しました。

朝一番の辞令交付式での緊張感がやや残る中、研修が始まり、初日は当センターの概要、地域での役割、サービス、医療安全、感染対策等幅広い内容の研修を受講しました。

2日目以降は、電子カルテ操作、薬剤、検査、放射線科等の診療部門の研修受講となりました。



3日間の研修を終えた新入職員は、それぞれの配属部署での勤務が始まることとなります。「地域住民の生命と健康への貢献」の基本理念を忘れずに、また、当センターの目標である「笑顔あふれる病院」に向かって頑張りたいと思います。

これから様々な困難にぶつかることもあると思いますが、一人で悩まず今回の同期の絆を大切に、乗り越えていってほしいと思います。皆さまには、いろいろとご迷惑をお掛けすることもあると思いますが、温かく見守っていただければ幸いです。

（文責：経営管理課 課長補佐 田尻 祐介）

## 医療最前線 (147)



### 新たにSGLT2阻害薬のHFpEFへの有効性が確認されました

循環器内科  
清水 博

近年、特に高齢化の著しいわが国では心不全患者が急増しており、感染症患者の爆発になぞらえて「心不全パンデミック」と称されています。その臨床像は量的増加だけでなく、質的にも変化してきています。それは左室駆出率(left ventricular ejection fraction : LVEF)が50%以上であるLVEFの保たれた心不全(heart failure with preserved ejection fraction : HFpEF)の増加で、わが国のHFpEF患者の割合は既に心不全の半分以上と報告されています。HFpEF患者の予後はLVEFの低下した心不全(HF reduced EF : HFrEF)に比して比較的良好であるという解析結果が確認されておりますが、HFrEF患者と同等またはそれに準ずるくらい悪いことになり変わりなく、高齢化社会において心不全加療には注意を要すると言われております。

2019年、糖尿病合併の有無とは無関係に、SGLT2阻害薬がLVEFの低下した慢性心不全患者(HFrEF)の心不全イベントを抑制することが国際レベルの大規模ランダム化比較試験により初めて証明されて、糖尿病とは独立してSGLT2阻害薬が心不全治療の新たな選択薬となることが示されました。さらに2022年8月に行われた欧州

心臓病学会にてHFrEF患者のみならずHFrEFからHFpEFまでの全ての心不全に対して有効であることが報告(DELIVER試験)されて、SGLT2阻害薬は現在HFpEFで唯一有効性が示された薬剤であります。その他CKD(慢性腎臓病)に対して有効性が証明された薬剤であり、臨床で遭遇するCKD合併の慢性心不全症例や、利尿剤使用に伴って腎障害が増悪してしまう症例対しても有効であることからこれまで心不全治療に対する懸念点を解消しうる薬剤と言えるでしょう。SGLT2阻害薬の副作用として尿路・性器感染症、ケトアシドーシスの他、低血糖、脱水や急性腎障害を起こすリスクが想定されます。尿路・性器感染症のある高齢者や、るい瘦などが目立ち、サルコペニアやフレイルのリスクが高い高齢者には使用を控えるべきですが、SGLT2阻害薬の特徴を理解し、適切に有害事象に対応することの他、適切な服薬指導や生活指導を行うことによってより良い高齢者心不全の管理が可能であると期待されています。またSGLT2阻害薬は腎保護を兼ね備えた特殊性から新規心不全治療薬ARNI(アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬)とも相性が良く、ARNIが潜在的に持つ腎機能低下や高K血症の発症リスクを低減する効果も期待されます。

心不全患者の多くが糖尿病や慢性腎臓病を合併していることを考えますと、SGLT2阻害薬は、今後ますます心不全治療の中心的な治療薬として位置付けられると思われれます。心不全の患者様がおりましたらいつでもご紹介頂ければ幸いです。

## 第73回公開講演会のご案内

### (日本医師会生涯教育講座 1単位)

取得カリキュラムコード 番号・コード名  
0. 最新のトピックス・その他

下記により第73回公開講演会を開催いたします。  
多数ご参加くださいますよう御案内申し上げます。

鹿本医師会会長 幸村 克典  
山鹿市病院事業管理者 別府 透

記

日時：令和5年6月9日(金) 19:00～  
形式：ハイブリッド方式(オンライン参加or会場参加)  
会場：オンライン参加 / Zoomミーティング  
会場参加 / 山鹿市民医療センター1階医療研修センター  
演題：「外科と感染に関する最近の話題」  
司会：山鹿市民医療センター 副院長 工藤 智志 先生  
演者：山鹿市民医療センター  
院長 外科 石河 隆敏 先生  
参加費：無料

【参加要領】 下記参加URL、又は参加QRコードから御参加ください。

(参加URL) : <https://zoom.us/j/96396310611>  
(参加QRコード) ⇒

ミーティング ID : 963 9631 0611  
パスコード : 171246



※ミーティングに参加される際の【名前】欄には、必ず「氏名」と「医療機関名」を御入力ください。  
※快適に御視聴いただくため、イヤホンやヘッドセットのご使用をお勧めいたします。

お問合わせ先 📍 山鹿市民医療センター  
地域医療連携室 深水、西田  
TEL:0968-44-2185 FAX:0968-44-0071

※共催：鹿本医師会  
山鹿市民医療センター医療研修センター運営委員会

# 外来担当医表

6月

診療科名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	※後藤 由比古	※濱田 昌平	※後藤 英介	—	※後藤 英介
腫瘍内科	—	—	—	—	宮本 英明
消化器内科	上野 茂紀	竹野 洋司	本原 利彦	上野 茂紀 竹野 洋司	本原 利彦
内分泌・代謝内科	川崎 修二	—	川崎 修二	—	川崎 修二
循環器内科	大庭 圭介 清水 博	大庭 圭介 清水 博	清水 博 大庭 圭介	※小國 哲也 担当医	大庭 圭介 清水 博
整形外科 (紹介外来制)	横田 秀峰 中原 達秀 山元 雅典	工藤 智志 中原 達秀 山元雅典 / 湯本みずほ	手術 (担当医)	工藤 智志 横田 秀峰 湯本 みずほ	手術 (担当医)
外科	別府 透 石河 隆敏 織田 枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 辛島龍一 / 織田枝里	手術 (担当医)	別府 透 石河 隆敏 尾崎 宣之
乳腺外科	—	※富口 麻衣	—	—	—
泌尿器科	—	※原田 成美	—	※神波 大己 教授	—
小児科	※石井 真美 9:00~16:30まで	※徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)	※石井 真美 9:00~16:30まで 予防接種(午後)	※石井 真美 9:00~16:30まで	※徳永 郁香 (小児一般・ アレルギー外来)
セ ン タ ー 感 覚 器	耳鼻咽喉科	—	非常勤医師	—	非常勤医師
	眼科	木山 優	木山 優	木山 優	木山 優
産婦人科	※片淵美和子 (午後)	※片淵美和子 (午後)	—	非常勤医師 *片淵美和子(午後)	非常勤医師
緩和ケア内科(予約制)	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里	堀 和樹	織田 枝里
総合診療科	吉岡 明子	—	吉岡 明子	—	吉岡 明子
救急外来	外科医(午前) 整形外科医(午後)	吉岡 明子	大庭 圭介(午前) 清水 博(午後)	吉岡 明子 / 消化器内科医	外科医(午前) 担当医(午後)
健診	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂	高木 茂

◎診療時間は8:30開始で11:00(小児科は16:00)受付終了となります。  
 当日の受診に関する相談を除く電話は、14時から17時が受付となります。  
 ※ 非常勤医師です。 \* 第2、第4のみ診療となります。

# 特殊・専門外来

6月

名称	担当医等	実施日	診察場所
外来化学療法(予約制)	担当医	毎週 火曜・水曜	各診療科
	宮本 英明	毎週 金曜 (がん薬物療法専門医)	
禁煙外来(予約制)	坂田 和子	毎週 月曜 (午後)	Aブロック
睡眠時無呼吸外来	坂田 和子	毎週 火曜・木曜 (午後)	
小児科予防接種	※石井 真美	毎週 水曜 (受付時間13:30~15:30)	
ストーマ外来	担当医	毎月 第3水曜 (午後)	Bブロック
女性外来(婦人科、思春期、更年期)	※片淵美和子	6/5月、6月、8月、12月、13月、20月、22月、26月、27月、29月	
PEG外来	担当医	毎月 第2水曜 (午後)	
両親学級(予約制:産婦人科)	助産師	第2・第4木曜日 (13:30~15:30) ※産婦人科へお尋ねください。	5階病棟
セカンドオピニオン外来(予約制)	各専門医が担当します。詳細はホームページをご覧ください。 予約については地域医療連携室にお尋ねください。		

◎特殊・専門外来については、各診療科にお尋ねください。  
 ◎急患の場合は、この限りではありません。  
 ◆注意：学会等の都合で変更になる場合があります。  
 ◆最新の担当表は、ホームページをご覧ください。

山鹿市民医療センター

〒861-0593 熊本県山鹿市山鹿511番地  
 TEL(代表)0968-44-2185 FAX 0968-44-2420  
<http://yamaga-medical-center.jp>